

令和8年度 学校経営の改革方針

I 現状と課題

本校では、学校教育目標である「自立した生徒の育成」を目指し、「生徒会活動の活性化」と「学び合いの授業」という2つの柱を中心とした学校経営を推進している。

まず「生徒会活動の活性化」においては、生徒会を中心とした生徒主体の学校づくりを進めている。具体的には、委員会活動を再編し、体育祭や文化祭の運営を生徒が中心となる実行委員制へと移行した。また、交流サークルによる福祉施設等との定期的な交流活動も実施している。これらの主体的な経験を通じて、生徒たちは達成感を味わい、自ら行動する姿勢が見られ始めている。

次に「学び合いの授業」においては、授業改革＝学校改革という揺るぎない信念に基づき、全ての生徒の居場所と学びの保障を目指している。年2回の外部講師と津市教育委員会指導主事を招聘しての公開研究授業を行うとともに、他校での公開授業研究会に参加するなど授業改善に向けて取り組んでいる。また、登校しづらい生徒への外部機関との連携や校内支援センター（サポートルーム）での支援を継続するとともに、不登校の背景にある居場所のなさや厳しい家庭環境といった要因にも目を向けて、取り組んでいる。「学び合う授業」を通して、生徒同士、生徒と教員のつながりを深め、正しい人権感覚の醸成と望ましい人間関係の構築を図る。

令和8年度も、これら「生徒会活動の活性化」と「学び合いの授業」の両輪をさらに強固なものとし、不登校生徒数の減少、学力の向上、そして全ての生徒の「自立」に向けて、教職員一丸となって精進を続けていく。

II 学校教育目標 「目標を持ち、自ら考え行動する自立した生徒の育成

～ 自分たちが創るウェルビーイングな西郊中学校 ～

ウェルビーイング (Well-being) は、well (よい) と being (状態) からなる言葉。

○「ウェルビーイングな学校」とは、単に学力の向上を目指すだけでなく、子どもたち一人ひとりが、身体的、精神的、社会的に健康で、充実感や幸福感を感じながら成長できる環境を提供し、教職員もまた生き生きと働ける学校を指します。

○ウェルビーイングな学校は、子どもたちだけでなく、学校に関わるすべての人々が心豊かに、そして持続的に成長できる場を目指しています。

○子供たちに良い教育をするためには、まずは先生たちが健康で、元気で、笑顔でいることが大事。そのためには、仕事にやりがいを感じる必要がありますし、また、同僚の先生方との横のつながりが大事になってきます。

III 実現したい学校像

「一人ひとりが、安心して楽しく学び合う生徒主体の元気な学校」

- わからないところを仲間に安心してたずねることができ、聞かれたら相手の立場に立って教え、一人ひとりが探求している、相互に学び合う姿のある学校
- より良い学校生活を求めて生徒自らが活動を創出する生徒主体の学校
- 「いじめ」や「差別」などに出会ったとき、おかしいと感じ、どのようにすればよいのかを考え、態度や行動に表せる学校
- 地域の思いや願いを受け止め、社会のルールやマナーを守り、地域の人に挨拶ができる、地域から信頼される学校

IV 目指す生徒像

- 仲間の言葉を大切にし、自分の考え方や意見も伝える、つながり学び合う生徒

- 仲間と共働を大切にし、自分が主体となりより良い学校を創造する生徒
- 仲間の思いを大切にし、自分も大切にするとともに高め合う生徒
- 社会のルールやマナーを守り、地域の人にも挨拶ができる心豊かな生徒
- 健康安全に心がけ、生命を大切にする生徒

V 目指す教師像

- 教員としての熱い思いや使命感を持って、力量を高め合う教師
- 教育に夢を持ち、愛情を持って指導する教師
- 人権感覚を高め、一人ひとりを大切にする教師

VI 重点目標及び具体的行動計画

【重点1】聴きあい学び合う授業の実践に取り組み、つながりを深めていきます。

評価指標	目標値	R6→R7
生徒アンケートの「先生はよくわかる学習指導に努めている」	95%以上	①75→98% ②94→94% ③94→93%
(1) 毎日の授業の中で課題の設定を工夫し、聴きあい学び合う授業の創造に努めます。		
○ 探究したくなる「ジャンプの課題」を念頭においた教材研究を行います。		
○ 教員自身が「聴く」姿勢を示範し、生徒の言葉を「つなぐ」ことを意識しながら探求の方向性を示し、グループ等に「もどす」ことで深い学びを目指します。		
○ 「ふりかえり」の仕方などを交流するなど、授業のタイムマネジメントに努めます。		
(2) 聴きあい学び合う授業をすすめるために、研修の機会を設けます。		
○ 外部の講師を招聘し、公開研究授業を年2回程度行います。		
○ 全教員が校内公開授業を年1回以上行います。		
○ 全教員が、年間1回以上の公開授業研究会（提案授業・研究協議）に参加します。		

【重点2】生徒自らが創出する活動を大切にするとともに、コミュニケーション能力や表現力の育成を図ります。

評価指標	目標値	R6→R7
生徒アンケートの「生徒会活動が活発に行われ、学校全体に明るく生き生きした雰囲気がある」	95%以上	①72→94% ②86→90% ③89→91%
(1) 生徒自らが活動を創出する自主性の体現を図り、生徒主体の学校づくりを目指します。		
○ 代議員や実行委員の活躍の場を設定し、生徒主体の動きとなるように計画します。		
○ 体育祭や文化祭等の行事を生徒会で企画・運営して、生徒主体の活動となるよう支援します。		
(2) 地域に根ざした交流会活動等のボランティア活動を充実させます。		
○ 交流サークルを活用し、ボランティア活動を活性化させ、地域との連携を強化します。		
○ 西郊中学校区で協働した地域清掃活動を今後も継続させます。		

【重点3】人権尊重の実践力育成と自尊感情の醸成を図り、一人ひとりが大切にされる学校を目指します。

評価指標	目標値	R6→R7
------	-----	-------

生徒アンケートの「学校は人権学習を積極的に言い、いじめのない安心できる学校づくりに取り組んでいる」	95%以上	①87→97% ②90→80% ③91→92%
(1) 人権学習をとおして、「いじめ」や「差別」などに出会ったとき、おかしいと自然に感じ、どのようにすればよいのかを考え、態度や行動に表せる人権感覚を養います。		
○ 人権教育推進委員会を毎週定期的で開催し、各学年の人権学習の取組について学年間の連絡調整を図り、3年間を見通した指導を目指します。		
○ 地域へ出向いたり家庭訪問を積極的に行ったりして、地域や保護者の願いや思いを聴き取り、教職員の課題意識を高め教育実践に生かします。		
○ 各担任が気になる生徒を視点を据えたレポートを作成し、自分の取組を振り返るとともに、課題の共有を図ります。		
○ 校区の子ども人権フォーラムや津市中学生人権フォーラムへの参加生徒を支援するとともに、校内での人権サークルの活動を促進します。		
(2) 個別の支援計画の見直し等、支援体制の充実・改善を図り、特別支援教育を推進します。		
○ 支援教育推進会議を月1回開催し、支援計画や支援方法などを検討します。		

【重点4】すべての生徒が誇りを持てる、安全で楽しい学校づくりを推進します。

評価指標	目標値	R6→R7
生徒・保護者アンケートの「学校は安心・安全な学校づくりに取り組んでいる」	生徒 <u>90%以上</u> 保護者 <u>85%以上</u>	生徒 ①75→94% ②87→77% ③91→78% 保護者 75→81%
(1) 問題行動の未然防止と早期発見・早期対応、全職員による情報の共有化、一斉指導、教育相談の充実など、生徒指導体制のより一層の充実を図ります。		
○ 生徒指導委員会を毎週1回行い、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応のため、各学年の情報共有と取組の振り返りをします。		
○ 教育相談を每学期1回、年間3回行い、日々、学習活動や部活動に励んでいる生徒が、一度立ち止まって自分を振り返り、悩みや相談事を話せる機会を持ちます。		
(2) 安全に関する知識、意識、技能を高める防災教育を推進します。		
○ 地震に関する避難訓練、不審者対応に関する避難訓練、地震・火災に関する避難訓練など年間3回以上の避難訓練を実施します。		
○ 校区安全マップの見直しを行い生徒への啓発とともに有効な活用方法を工夫します。		
○ 登下校時における交通指導を定期的実施し、交通ルールやマナーの遵守に対する意識を高め、交通事故の未然防止に努めます。		

【重点5】自己の個性を見つめ将来の生き方を考え、目標に向かって努力する生徒を育てます。

評価指標	目標値	R6→R7
生徒・保護者アンケートの「将来の夢や希望を持てるような進路学習・進路相談が十分に行われている」	生徒 <u>95%以上</u> 保護者 80%以上	生徒 ①62→94% ②86→91% ③90→91% 保護者 57→67%
(1) 自己の適性といろいろな職業を知り、進路に対する関心を高めます。		
○ 中学校卒業後の自分の将来や職業について学習することにより、自分自身の適性に合った納得のいく進路決定、上級学校進学への意識を持たせます。		

(2) 職業や上級学校についての情報をもとに、自己の適性を踏まえた進路計画を立てさせ、自己理解を深めながら実現しようとする態度を養います。
○ 職場体験学習を実施し、その事前・事後学習を含めて、働くことの意義を身を以て理解させます。
(3) 進路情報を積極的に活用し、自己の能力や適性を活かした進路選択をさせます。
○ 進路相談や保護者懇談会等で十分話し合い、自分自身で進路を切り開くという意識を持たせません。

【重点6】信頼される学校づくりを推進します。

評価指標	目標値	R6→R7
生徒・教職員アンケートの「今の西郊中学校に満足している」	生徒 90%以上 教職員 90%以上	生徒 ①76→95% ②66→78% ③87→77% 教職員 67→52%
(1) 授業改善に継続的に取り組み、生徒にとってよく分かるやりがいのある授業作りをします。		
○ 生徒の授業評価を実施して、授業改善に活かします。		
○ 保護者アンケート及び教職員による自己評価を実施して、授業改善に活かします。		
○ 指導と評価の一体化が確立する取組を推進します。		
(2) 西郊中学校区の小中一貫教育推進にあたり、さらに計画的・継続的な指導を目指します。		
○ 西郊中学校区小中一貫教育推進の学力向上部会において、これまでの取組をもとに今後につながる事業計画を立案・共有し、実施します。		
(3) 家庭訪問や通信、HP、授業参観等を使って積極的に情報発信を行い、開かれた学校づくりを推進します。		
○ 家庭訪問を大切にして、保護者との連携を密にします。		
○ 定期的に学校、学年、学級通信を発行して、説明責任を果たします。		
○ HP作成にたくさんの職員が関わり、学校生活の様子や各種情報を積極的に発信します。		
○ マチコミメールを、緊急時の連絡以外にも各種情報発信に活用します。		
○ 学校運営協議会の活動の充実と推進を図ります。		
(4) 部活動指針を厳守し、生徒の心身の健康に配慮するとともに、部活動指導員、外部指導者等地域の人材を活用し、部活動顧問の負担を軽減します。		
○ 土日の活動については、毎週必ずいずれかを休養日に設定し、大会等でやむを得ず両日とも活動する場合は、教育委員会が示す部活動指針に沿って対応します。その他活動時間等についても、部活動指針を遵守します。		
(5) 教職員が一人ひとり業務の質を高めるとともにSSSを積極的に活用し、総勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスを適切に保つことにより、組織全体の能力を高めます。		
○ 職員会議について、企画委員会での事前検討やペーパーレスによる資料の事前準備・配付の省略、所要時間の明確化などにより短縮します。放課後の会議の所要時間は1時間以内、前年度比10分の短縮を目指します。		
○ 定時退校日を設定します。週に少なくとも1回、部活動休養日とした日に、個別に、17時に退校することとします。定時退校できた職員の割合90%以上を目指します。		
○ 休暇の取得日数を、前年度より年間3日以上増加させます。		
○ 一人あたりの時間外労働時間を、前年度比で月4時間削減します。		
○ 月45時間、年360時間を超える時間外労働者の延べ人数0人を目指します。		